夢を信じて

えのきどいちろう

あなたが子どもの頃に抱いた夢は？　アスリートが子どもの頃に見ていた夢、そして夢を持つことの大切さを語る「夢を信じて」。インタビュアーはコラムニストのえのきどいちろうさん。今回のインタビューゲストは、神奈川FSC所属の女子フィギュアスケート・青木祐奈選手です。

第13回　フィギュアスケート
青木 祐奈（あおき ゆな）選手

最初は小さいサブリンクでお母さんと一緒に

── スケートを始めたのは？

青木　5歳からです。建て替える前の神奈川スケートリンクで。最初は小さいサブリンクでお母さんと一緒に滑ったんですけれど、私は壁につかまって立つのがやっとなのに周りにはビュンビュン滑ってる子たちがいっぱいいて、クルクル回ってたり、すごいなって思いました。

── 最初、滑れたときって感動しなかった？

青木　すごいしました。お母さんの助けも壁もなくても立てるようになったときは、本当に「イエイッ!」ってなって、さらに楽しくなっちゃって(笑)。どんどんいろんなことに挑戦するのが毎回楽しみで、バックに滑ってみたりとか。

── 最初、ひょうたんバックみたいに後ろに下がるやつとかできたとき、感動するよね。「後ろ下がってるよ!」みたいな感じで。でも、だんだん練習で友達と遊べなくなったり、学校からすぐリンク行くとか、普通の子と生活が変わっちゃうじゃない。そんな寂しさってあったの？

青木　やっぱり遊びたいなって思ったりするときもありましたけれど、自分で選んだことだから。

── 本気でこの競技をやっていこうって決めたのは？

青木　幼児教室から選手になるコースに移ったとき、小学校に入る頃です。

── へー。すごいなぁ。そこから一回もぶれてない？

青木　いえ、あります(笑)。

── チームスポーツじゃないからさ、やっぱり一人でやることのきつさってあると思うんだけど。

青木　去年はすごく行き詰まっちゃって、練習も嫌で嫌で。もう辞めたいって何回も思いました。部活だったら試合負けちゃったりしてもみんなで励ましあったりできるけど、そういうことはできないから。自分と戦ってる感じかな。

── じゃあ課題を抱えると、その課題と一緒に電車に乗って、家に帰ったらその課題と一緒に生活して…。

青木　そうですね。追いこんじゃうから、気分も乗らないし、練習自体がダメになっちゃうときもあるけど、でも乗り越えられたら、自分が一段階強くなった感じがするから。

── 今までどんなことが大変でした？

青木　去年が一番きつかったかな。いままで飛べてたジャンプまで飛べなくなっちゃいました。小さい頃は何も考えずに勢いっていうのがあったけど、やっぱり年頃になって考えたり、周りの目とかも気にすることが多くなっちゃったのかな。「何でだろう」って自分で何回も考えても答えが見つかりませんでした。

── それはどういう感じで突破したの？

青木　もう一度基礎からってアメリカに行ったんです。アメリカでジャンプの練習を丸々2週間。

── アメリカ人の先生って感覚的に教えるっていうか、「あっそうか」っていうヒントをボーンってくれる感じでしょ。外国に行くとこんなふうに教えるの？　ってびっくりしますよね。

青木　すごい感じました。最初はびっくりしました。

日本でトップにいければ、世界でも通用する

── 今はどんなこと考えてるの？

青木　今のジュニアはすごくレベルが高くて。世界もすごく高いし、日本も高いから。まず日本の中で勝っていくことが大事だと考えています。日本でトップにいければ、世界でも通用するので。それと、アイスショーがすごく好きなんです。プロの方と会うことも勉強にもなるし、プロの選手はすべての動作が美しくて、本当に学ぶことがたくさんあるので。一緒にショーの練習をしてると自分もモチベーションが上がって、勉強にもなるし。

── フィギュアスケートって、芸術性もあるし、その人その人の表現の世界があるからね。

青木　いろんな方に会ってみたいです。ジャンプが得意な人もいれば、表現がすごく豊かでスケーティングが上手い人もいるし。やっぱり生で見るのが一番なので、自分が上手くなって試合やショーに出て、いろんな選手を見たいなと思います。

── 会って直接話をして、どんなこと考えてるのかとか、どんな感じ方をしているのかとか、そういうやりとりはすごく刺激になるよね。

青木　小さい頃からの憧れだった荒川静香さんと初めて同じショーに出たんです。「頑張ってね」って言ってもらって、それは励みになっています。

── 羽生結弦さんは東日本大震災のときにここのリンクに来ていたって聞きました。

青木　普段はやさしいんですけど、氷に上がったらキリって目つきが変わって。ジャンプがすごくきれいで。軸がまっすぐで。トレーニングを一緒にやったときに「腰締めた方がいいよ」って教えてくれて。それは今でもノートに書いてあって、大切に持ってます。

── 言葉で教わるよりも、本当にやってるのを見る方が「あぁ、そういうことか」って分かったりすることありますよね。スター選手とかって通っていくときに、風が…キラキラキラって吹くような。そういうの感じたことない？

青木　あります(笑)

── 後ろになんかヒューって(笑)。通るとそう見えるんだよね。あれはすごいよね。

青木　本当にすごいです。立っているだけできれいだからすごいなって。やっぱり自信なのかなって思うくらい。

── 祐奈さんもそういうふうにならないとね。

青木　へへっ(笑)

PROFILE プロフィール

青木 祐奈（あおき ゆな）選手
フィギュアスケート選手（女子シングル）。2002年1月10日生まれ。横浜市出身。2006年のトリノオリンピックで金メダルを獲得した荒川静香選手の演技をテレビで観て、スケートに憧れ、5才から神奈川スケートリンクでスケートをはじめる。指導者は、羽生結弦選手の指導にもあたった都築章一郎氏。2014年3月、ルクセンブルグで開催された国際B級大会クープ・ド・プランタン杯で国際大会初出場ながら見事優勝を果たし、2015-16シーズンから公益財団法人日本スケート連盟強化選手（フィギュアスケート強化選手B）に選出されるなど、将来を期待される若手スケーター。

取材を終えて

横浜銀行アイスアリーナの氷上で青木祐奈さんはすぐに見つかった。たくさん選手が練習していたんだけど、自然に目が行く。うまく言えないが、こう、雰囲気というのか世界があるのだ。その雰囲気、世界は直接インタビューをして、更に強く印象に残った。自分を見つめ返す視線を持っている。舞台にたとえるなら、自分が主演でありながら観客や批評家でもあるような感じだ。ひと言でいえば自分を持っている。まぎれもなく逸材だ。

今回のインタビューをテーマにしたコラムが横浜スポーツ情報サイト[ハマスポ]オフィシャルライターコラム**「えのきどいちろうの横浜スポーツウォッチング」**（11月25日公開予定）でご覧いただけます。併せてご覧ください。 URL https://www.hamaspo.com/enokido